

## 第 5 4 回 香 芝 警 察 署 協 議 会

開催日時	令和8年3月3日（火）午後2時から午後3時40分（100分）		
開催場所	香芝警察署 署長室		
出席者	協議会 （定数11名）	成井会長 東副会長 勝良委員 千葉委員 大橋委員 山下委員 植村委員 植山委員 松井委員 山田委員 以上10名	
	警察署	署長 副署長 警務課長 地域課長 以上4名	
開催概要	<p>1 香芝警察署協議会会長挨拶          本日の協議会では「若手警察官の早期戦力化」が諮問事項として示されている。警察官の実働時間の縮減や人員不足など、マンパワーが限られる状況の中で、若手警察官の早期戦力化は非常に重要な課題である。本日の協議会が、警察と地域が一体となって安全で安心なまちづくりを進めるための有意義な意見交換の場となるよう、忌憚のないご意見をお聞かせいただきたい。</p> <p>2 香芝警察署長挨拶          今年度の香芝警察署協議会を振り返ると、「住民から見た理想の警察官像について」や「限られた警察力の効果的な運用方策について」をテーマに議論していただいた。これは、香芝警察署の体制強化を目的としたものである。今回は、奈良県警察全体の課題でもある「若手警察官」に着目した諮問とさせていただいた。当署は若手警察官の割合が高いという現状があり、若手警察官をいかに早く育成し、実力を身につけさせるかが重要となっている。警察としても、様々な取組を通じて若手警察官の育成に努めているが、委員の皆様の知見をお借りしながら、より一層力を入れて取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>3 各種訓練視察          (1) 実践的総合訓練          (2) 総合対処法訓練</p> <p>4 議事          (1) 前回答申に対する取組結果          諮問内容：限られた警察力の効果的な運用方策について          当署では、前回の答申で示された「顔の見える関係づくりを基盤に、地域と警察が協働して限られた警察力を最大限に発揮する」という理念を職務の指針として、以下のとおり取組を展開した。</p> <p>ア 地域の防犯力向上          自治会等に対し、防犯カメラの効果的な設置場所や運用方法を助言し、自主的な防犯環境の整備を支援するとともに、自治会・学校・事業所と情報共有を進め、「顔の見える関係」の構築に努めた。</p> <p>イ 交通安全対策の充実          住民から危険との相談があった場所について、交通状況を踏まえた街頭活動や交通指導取締まり、注意喚起を実施した。また、可搬式速度取締り装置の活用等で生活道路の安全対策を行った。</p> <p>ウ 地域に根ざした防犯教育の推進          学校や自治会、高齢者団体等へ出前講習を実施し、指導者育成を重視した講習により、各機関が主体的に防犯啓発を行える体制を整え、防犯活動の裾野拡大と地域の防犯力向上につなげた。</p>		

- エ 警察業務への理解促進と業務の適正化  
事案処理や窓口対応等の機会を通じ、警察と他機関の役割の違いを丁寧に説明し、適切な相談先につなげる取り組みを推進し、警察が重点事案に警察力を集中できる体制作りを進めた。
- オ 業務の効率化  
勤務シフトや装備の改善、県警察のOBやボランティアとの連携強化により、警察力の補完を図った。
- カ 新たな仕組み作りの推進  
官・学・民の連携を強化し、奈良県警察安全・安心アプリ「ナポリス」の普及広報や民間交番設置に向けた情報共有などを推進した。
- キ 総括  
高齢者保護事案の増加や相談の多様化など、警察単独では限界がある課題に対し、他機関との連携や役割分担、住民の自主的取り組みを進め、持続可能な警察力の確保を図った。
- (警務課長)

(2) 諮問

諮問事項:若手警察官の早期戦力化について

近年の社会情勢は、単に「治安が悪化した、していない」という問題ではなく、総人口の減少や少子高齢化の進行、スマートフォンやインターネットの普及によるサイバー空間の拡大、さらには豪雨や台風などの自然災害の激甚化等、社会構造そのものが大きく変化している。こうした変化は、治安課題の多様化、複雑化につながっており、警察活動にはこれまで以上に高度で多様な能力や資質が求められている。また、警察組織においても世代構成が変化し、若手職員の占める割合が増加している。そのため、若手職員の現場対応力や実務能力を早期に高め、組織全体の執行力を維持・向上させ、地域の治安を守り続けていくことが重要な課題である。

香芝警察署においても、若手職員の割合は増加していることから、若手警察官が地域の守り手として早期に独り立ちし、地域住民の皆様にも香芝警察署の若手警察官は頼もしいと実感してもらえるよう、次の点について専門の見地に加え、地域住民としての多角的な視点から幅広いご意見をいただき、今後の警察署運営や人材育成施策に反映していきたいと考えてる。

- ・ 若手警察官の育成体制
- ・ 指導のあり方
- ・ 職務能力向上に資する取り組み

(地域課長)

(3) 答申

ア 若手警察官の早期戦力化は我が国の治安維持を担う上で極めて重要事項であることから、警察学校での教育を基盤とし、配置後の現場実戦を通じて組織的かつ計画的に育成していく必要がある。

イ 育成に当たっては、ベテラン警察官との動向勤務などによるOJTを推進し、適切な業務付与とフォロー体制の下で挑戦の機会を確保するとともに、成果に対する適切な評価により達成感と自己肯定感を高めることが重要である。

ウ ロールプレイングや事例検討等を活用して経験不足を補完し、判断力及び対応力の向上を図る必要がある。

エ 知識や技術の伝承や事例の共有を進めるなど組織的な育成体制を確立するとともに、相談しやすい職場環境を整備し、若手警察官の特性をいかした指導により、意欲と自信の向上を図ることが求められる。

オ 社会環境の変化を踏まえた対人対応能力の向上に資する実践的な取り組みを推進し、住民と親しみやすく誠実に対応できる警察官を育成する必要がある。

カ これらの取り組みを継続的に推進することにより、住民の期待に応える強固な警察組織の確立と若手警察官の早期戦力化につながると考える。

(4) 警察活動全般に対する意見要望(意見聴取のみで後日回答)

- ア 交番・駐在所の統廃合によるメリットとデメリットについて
- イ 送致時等における被疑者の人権への配慮について

5 警察署協議会の議事録

当警察署協議会の議事録については、「個人のプライバシーに関する事項及び協議会の議決により公表しないと決定した事項を除いたもの」を作成して閲覧に供すると全会一致で決定した。

6 次回協議会の開催予定

次回の協議会は令和8年6月頃を予定している。